

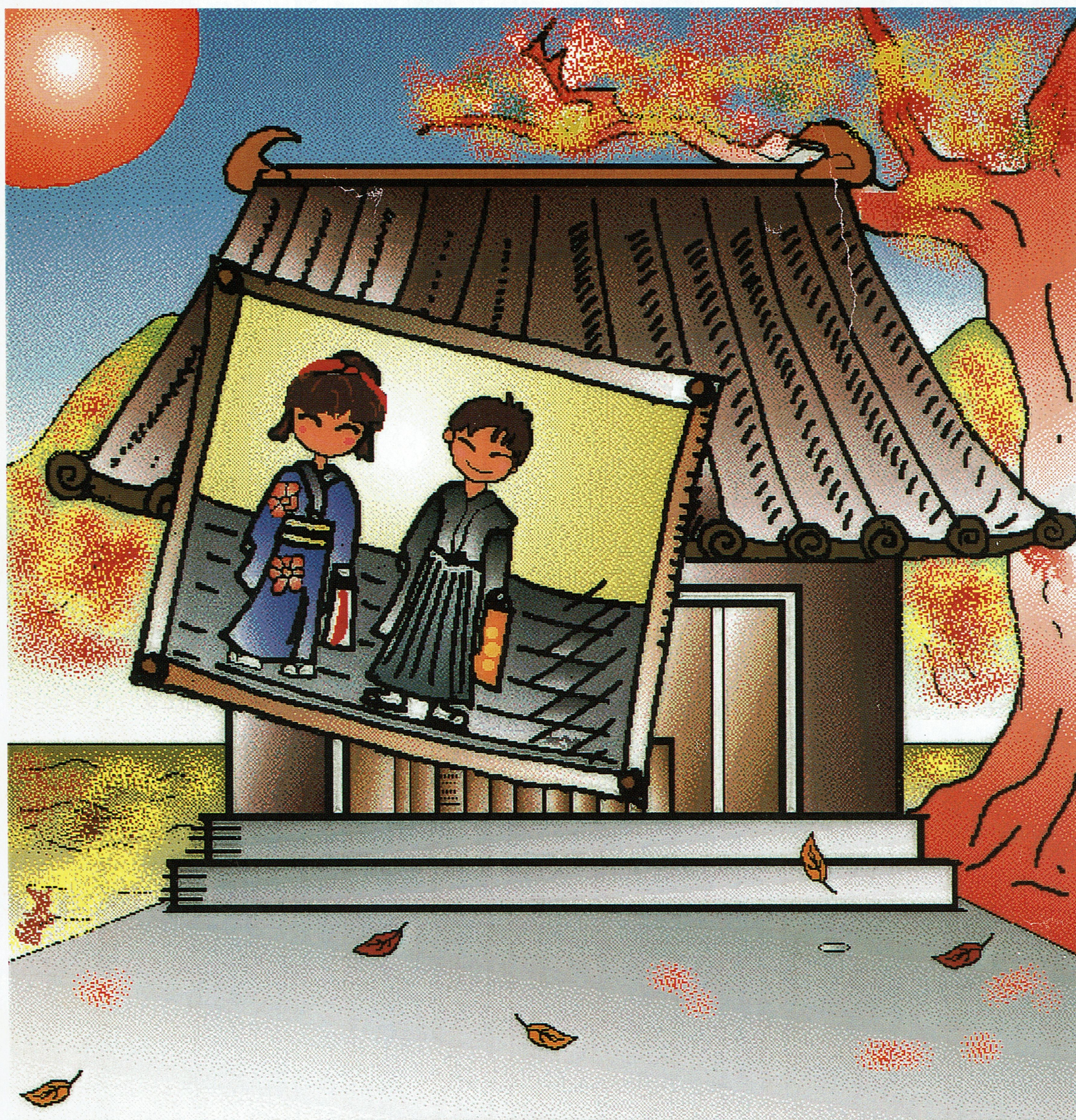
教育と情報

EDUCATION AND INFORMATION

特集●子育てと教育費

平成8年

11



インターネットを用いた 音声表現と相互評価

出口 和生

オープンスペースとコンピュータ

本校の現校舎は、オープンスペースをもち、教室間の壁がない構造として、昭和59年に完成した。そして、翌昭和60年には、コンピュータ15台が導入されたが、当時は、オープンスペースの広々とした空間がありながら、コンピュータは狭いコンピュータ室の中でCAIにだけ使われていた。

平成元年、横浜市情報教育研究校第1期校としてコンピュータ20台が追加配当されたのを期に、オープンスペースとコンピュータを融合させた分散配置がスタートした。

この分散配置により、コンピュータは1年生から6年生までの教室のすぐ近くと職員室・事務室・保健室に配置され、

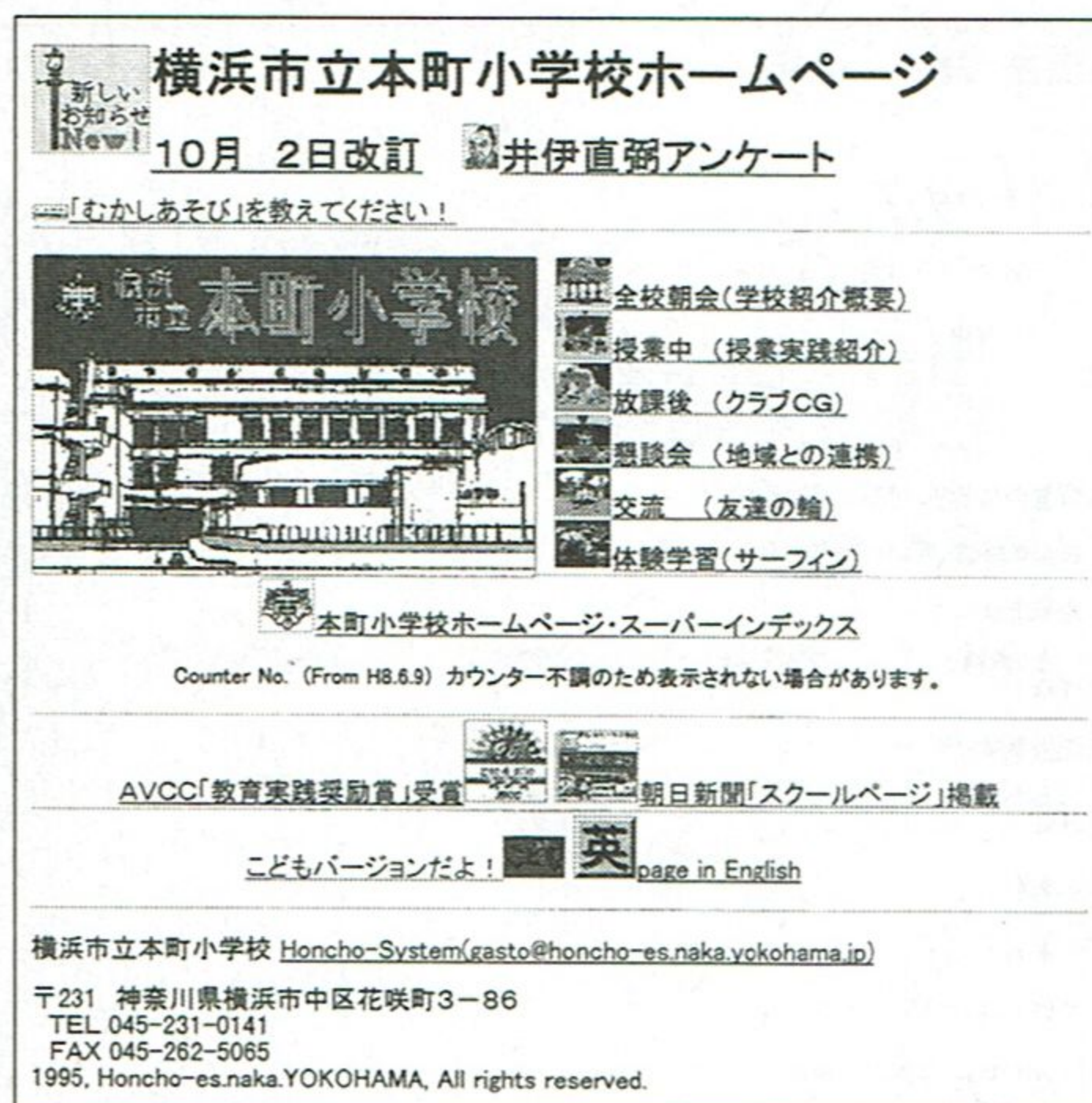


画像1 オープンスペースとコンピュータ

授業時間だけでなく休み時間や放課後にもだれでもが自由に使えるようになった。コンピュータがオープンスペースで生き、オープンスペースもコンピュータで生きてきたのである。

パソコン通信と校内ネットワーク

校舎だけでなく、授業の展開や児童の表現もオープンにしようとする試みの1



画像2 横浜市立本町小学校ホームページ

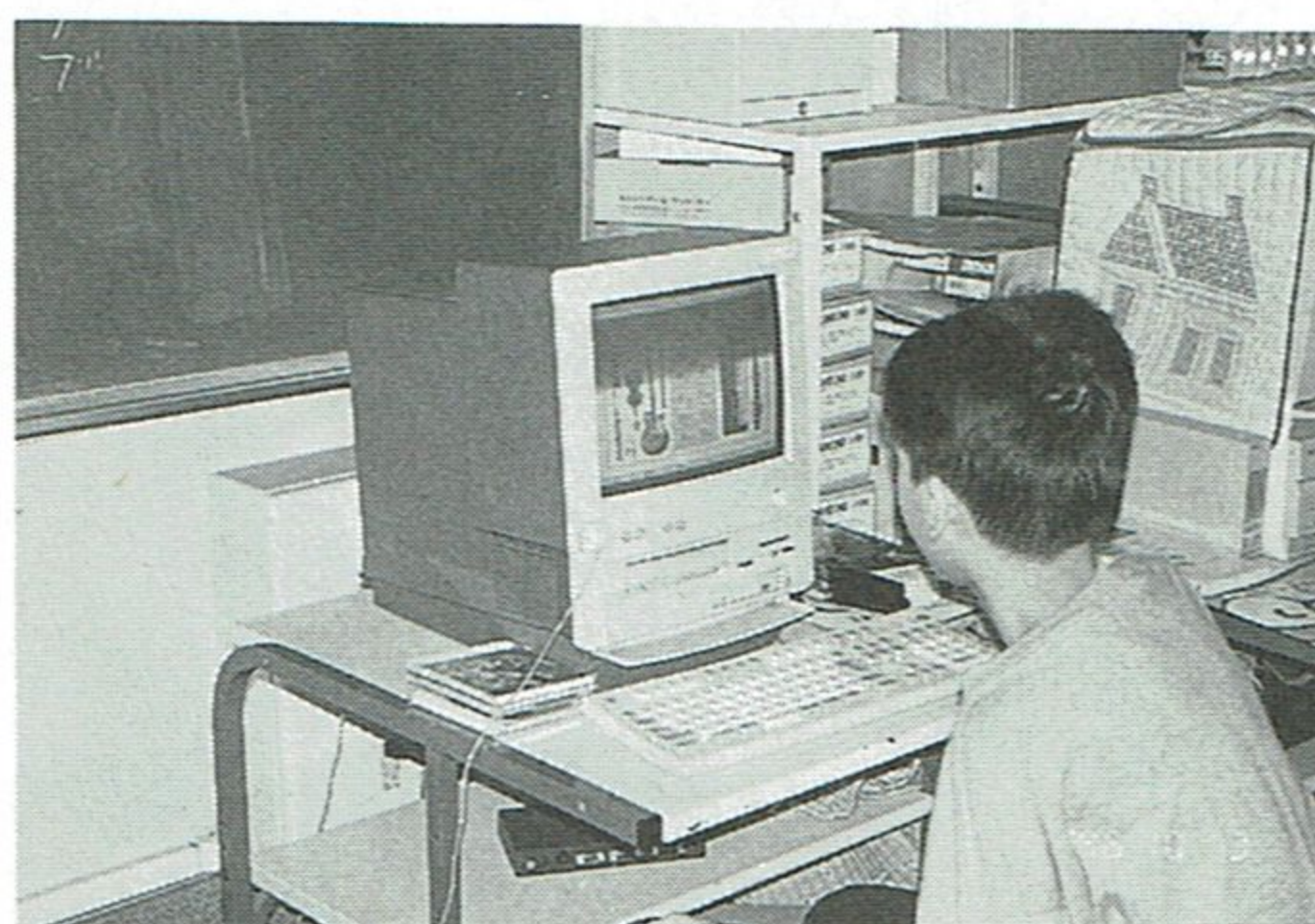
つとして、学校外の世界との触れ合いを意識しパソコン通信に取り組み始めたのが、平成2年のことであった。

しかし、このパソコン通信で2つの問題点が明らかになってきた。1つは、学校外の世界とつながっているのに、学校内のコンピュータ同士がつながっていないという矛盾であった。パソコン通信を児童により身近にするためには、学校内のコンピュータをつなげる校内ネットワークが必要になってきた。

そして平成6年には、念願の校内ネットワークが敷設され、学校内でデータを共有し、パソコン通信もできるようになった。

そして、インターネットの世界へ

パソコン通信の問題点のもう1つは、画像や音声等を送ることが困難なことであった。文字だけでは伝わらないものを



画像3 インターネットに親しむ児童

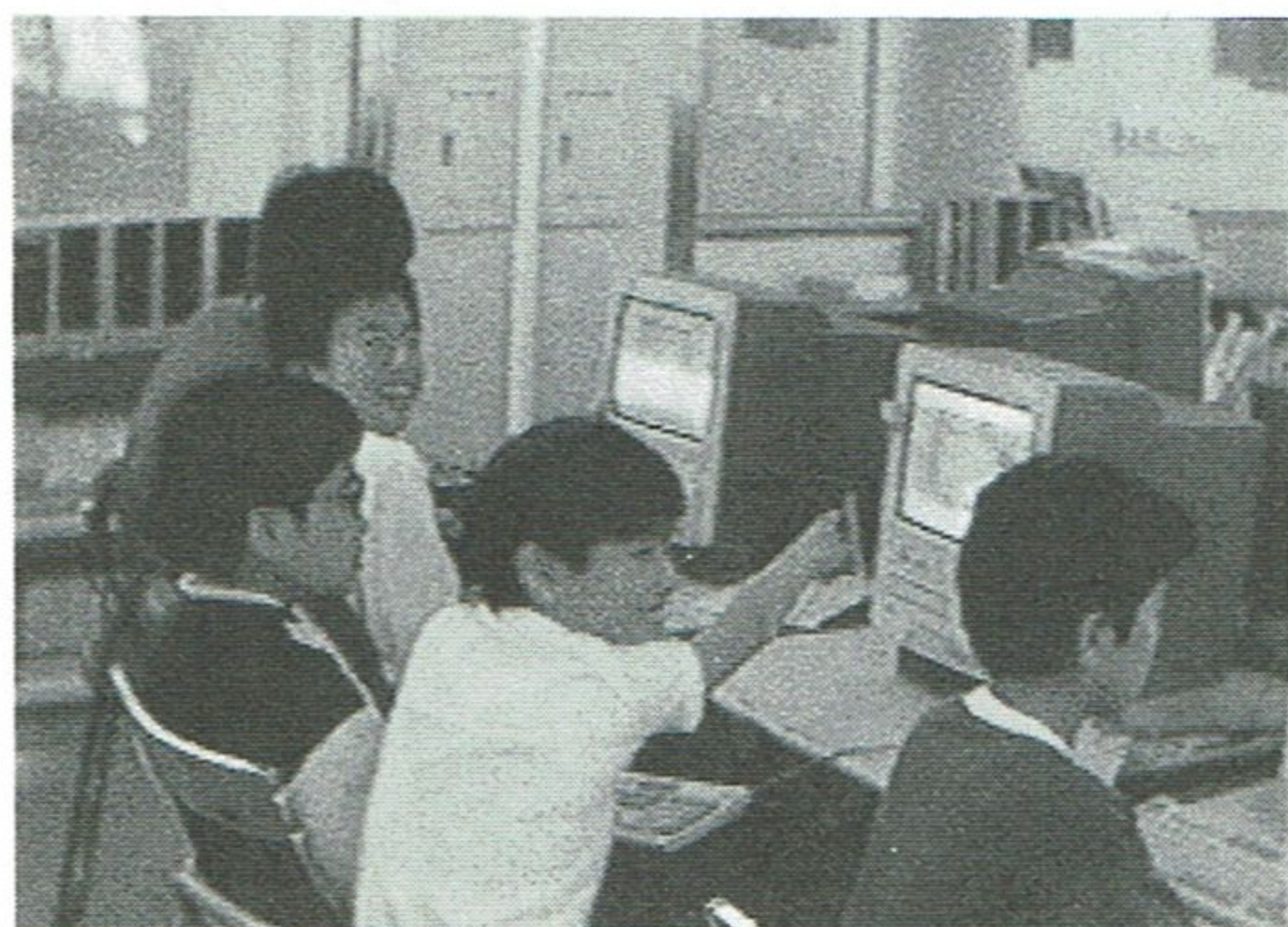
伝える手段の1つとしてインターネットに注目し、平成7年には「インターネット100校プロジェクト」対象校としての活動をスタートした。

この100校プロジェクトでは、インターネットの端末機が1台だけ貸与された。しかし、ここで本校の環境を生かすことにより、オープンスペースに分散配置され校内ネットワークで接続されたコンピュータが、すべてインターネット端末機となった。児童の近くにインターネットが下りてきたのである。

インターネットでの表現を目指して

6年国語科の学習に「国風文化に親しもう」がある。この学習において大切なことは、自分の作った短歌や気に入った有名な短歌を気持ちを込めて朗読することである。また、朗読する際に「自己評価」「相互評価」を行って、よりレベルの高いものにしていく必要がある。

そこで、自分で短歌をつくった後、その作品を自分の思いをこめて朗読するという展開を考え、短歌をコンピュータで



画像4 コンピュータで短歌を録音

録音して、自分や友達の朗読を何度も聞き合うことを考えた。また、インターネットを活用して作品を公開すれば、自分たちの作品を学校外の人たちに聞いてもらい、学校外の人とコミュニケーションをとることも可能になるとも考えた。インターネットでの表現という新たな手法へのチャレンジである。

インターネットを用いた相互評価

ところで、先に述べたように、本校には校内ネットワークが構築されている。6年生が書き込んだものは、インターネットを通じて学校外に公開されるとともに、校内のどこにいてもそれらの作品を鑑賞することができる状況にある。最近よく聞かれるようになってきた「イントラネット」と呼ばれる環境でもある。

この環境をうまく使うことによって、児童同士の相互評価を楽しく簡単に行うことができるようになることに気が付いた。すなわち、インターネットの世界ではよく使われている「アンケート・フォ

山田 敦子 作品

短歌
あじさいの ふとんの上で 一休み
ふとんのおれと 白いおどりを

解説
人はみんな支え合いながら生きている。
「白いおどり」というのはチョウが飛んでいる様子で、
チョウもアジサイの上にとまらせてもらって、おれに、
白いおどりを見せ、あじさいもそれによってやすらぎを
与えられるのだらう、という気持ちから。

短歌の朗読(約150k auファイル)

読んだ感想・聞いた感想を選んでください。

短歌を読んで...

☐ もう最高! ☐ すばらしい ☐ よくできました ☐ もう少しがんばれ

朗読を聞いて...

☐ もう最高! ☐ すばらしい ☐ よくできました ☐ もう少しがんばれ

なまえ:

ねんれい:

せいべつ: ☐ 男 ☐ 女

その他感想もメールで教えてください。

画像5 アンケート・フォーム

ーム」という簡易アンケートを児童の作品に付け加えて公開することにより、児童は友達の作品を聞いた後に、その評価をメールで作者に送るという活動が行えるのである。

実際の授業にあたって、児童は自分の作品をインターネットで発信することを意識し、ノートに推敲した短歌をワープロを使って入力し、サウンド・ツールを使って何度も何度も自分が満足するまで録音を繰り返し行っていた。児童自ら自己評価しながら自分の表現力を高めようとしていったのである。

さらに、文章入力と音声入力が完成した児童の作品がインターネット上に公開されると、今度はその作品を友達同士で聞き合って、評価をメールで送り合うという活動に発展していった。

インターネット活用のメリット

インターネットの学習への活用はまだ研究の緒についたばかりのところである。しかし、児童の表現する場を広く日本中や世界中に広げることができる可能性があり、また、いろいろな学校外の方とのコミュニケーションができる可能性もある。児童の立場から考えても、自分の作品を先生以外の人が見て評価してくれる可能性を認識することで、自らより高い目標に向かって活動していくことになるであろう。

しかし、現状のインターネットの世界はまだあまり広くはなく、児童の公開した作品に対して学校外の人が評価を返してくれることは多くはない。保護者や地域の人のお大半がインターネットを家庭でできるような時代になれば、児童の作品を学校外の人が評価するという活動も現実味を帯びてくると思われる。

校内ネットワーク活用のメリット

上記、インターネットの現状を打破することのできるものとして、今回の「国風文化に親しもう」の学習は「イントラネット」すなわち「インターネットの技術を校内ネットワークの中で生かすこと」の可能性を示している。インターネット用に作成した作品集をそのまま転用することによって、「校内相互評価ツール」として活用することができたのである。実



画像6 活動の様子1



画像7 活動の様子2

際に児童は、実践の中心となった1週間で200通以上のメールを送り合った。そのメールの数以上の相互評価を、子どもたちは楽しみながら自然に行っていたのである。

しかし、問題点も露見してきた。200通のメールの処理を教師がしなくてはならなかったのである。この点は、今後の技術進歩やアンケート・フォームの作り方によって解決されるであろうが、今回の実践ではかなりの労力を要したことを付け加えておく。

（でぐち かずお）
（神奈川県横浜市立本町小学校教諭）